

High ♥ Line Wakabayashi  
**はいらいん若林**

みんなでここさ

入らいん!

若林区まちづくり協議会会報

2006.3.1

Vol. **9**



貞山堀は、伊達政宗の時代の1597年に工事が始まりましたが、名取川と七北田川の区間は新堀と呼ばれ明治22年に完成しました。船で物資を運ぶ運河として作られましたが、陸上の交通の発達により運河としてより釣りやアサリ採りの場になり、現在は堀に沿って自転車専用道路ができ公園整備も進められ憩いの場と変わりました。

みんなの憩いの場

貞山堀



11月下旬、名取川から七北田川の区間を自転車で走りました。暖かい日差しのおかげで、赤トンボが群れ飛び、水鳥の泳ぐ姿を眺めながら...  
 小さな展望台のそばのゲートボール場にいた方たちのお話では、「終戦前は魚獲りの船が堀に入ってきた。水が澄んでいて底の砂や泳ぐ魚が見えたよ。子どもの頃、浜まで泳いでハマナスの実を食べた。ハマナスは熟すと種が多いが甘い」とのこと。  
 北海道を思わせるような湿地帯が続いた先に馬場があり、数頭の馬と犬がいました。馬場までの堀側にツツジの垣根が続いていて、花の季節が楽しみです。先に進むと、17年7月にオープン

した海岸公園冒険広場があります。ジャンボサイズのトランポリンや滑り台、幾通りもの方法で上れる展望台、会場全体が丘になっていて、子どもにとってこたえられない場所です。ここは、自転車専用道路へも行き来できるようになっていて、遊びに来た家族が散歩していました。  
 二郷堀排水機場を過ぎ荒浜の町に入ると、石で積まれていた岸がコンクリートの岸になっていました。深沼橋から見下ろすと、魚の跳ねる音がピシャン・パシャンとして「釣ってみたら」と誘っているようでした。  
 荒浜を過ぎたところで宮城野区に入りますが、森林浴に最適な松林が続く、海岸公園野球場、七北田川へと道はつながっています。(本多やゑ子 記)

会報の愛称

「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。



2007年、団塊の世代の大量退職が始まるといわれています。皆さんは、仕事を退職した後、どんな生活をしたいですか？何もせず家でゴロゴロ…なんてもつたいない！

一歩外へ出れば、皆さんを必要としている場所がたくさんあります。今回は、仕事を退職した後様々なジャンルで活躍されている地域の方をお招きして、退職後の生き方についてお聞きしました。

# 考えてみませんか？ 退職後の生き方について

私たち団塊の世代は、戦後の時代を懸命に、豊かさや繁栄を求めて生きてきました。しかし今になってみると、縦のつながり(親・子)あるいは横のつながり(地域の助け合い)が次第に薄くなり、何かが間違っているのでは、との反省の思いにかられる昨今です。まもなく仕事から解放される仲間が多数でてきます。その時に備えて、現在仕事をなされて地域で活躍されている方々の話を聞き、その生き方を大いに参考にさせていただきながら、どうしたらもっと元氣な若林区をつくれるか勉強したいとの思いでこの座談会を企画いたしました。



勝又 久雄 編集委員長

## 活動を始めるきっかけ

**司会(西條)** 相澤さんは、退職前は郵便トラックの運転手までとは全く違うビデオの活動を始めたのはなぜですか？  
**相澤** 私はパチンコを毛嫌いしていたのですが、ある日やってみたら6万ぐらい大勝ちしてしまったんです。そのお金を何に使おうか…とたまたまビデオカメラを購入したのがきっかけです。会社 意外なきっかけだったというのをおもしろいですね。相澤 同僚の中にも「たいくつ…」と言っている人がいます。しかし、一歩外へ出るとその人を引き付ける何か必ずあるはず。一歩踏み出すきっかけを探しているのではないですか？  
**司会** やはり自分から出て行って何かを探求することが、今までの社会の中の枠にはめられてできない、というパターンが多いということでしょうか。  
**藤平** 私たちの団体ではリストラされた方々が中心に活躍されています。伐採は危険な仕事なので、その後の整理作業をしていただいています。昨年11月から今年2月まで県の委



相澤信男さん (60歳代)

若林市民センターのビデオ講座終了後、受講生により結成された「社の都Vカメ同好会」代表。「東北大学大学院情報科学研究科メディア文化研究室」の指導を受けながら、定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど地域のイベントを記録し残す活動をしている。

## 中間の世代が必要

**編集部(菅井)** 今は介護の現場に若い方が入ってきていますが、世代的に離れていると難しいと感じていないですか。同世代の話し相手があるの合間に必要と思いましたがいかがですか？  
**鈴木** 私たちは研修で、利用者の名前を呼ぶときは「ちゃん 一付けはよくない、子ども扱いになり人生の先輩に対して失礼になりますよ」といわれ、今も胸に残っています。編集部 その世代に会った言葉が、団塊の世代つまり中間世代は



藤平明雄さん (50歳代)

あつたほうがいいですね。家庭を通して経験豊富な40代、50代の方を担い手として、何かの形で雇用してみるのも良いのでは、と思います。司会 経験は財産。高齢者が高齢者を介護するということがあつていいと思います。それが私が相澤さんのお話でもおもしろいと思つたのは、今まで相澤さんはものづくりの経験がなかったというのです。ものづくりの喜びはどんなときに感じますか？  
**相澤** 同好会でも、皆さん経験がピンキリです。その人たちがどんな作品をつくっていくか、初心者は初心者なりに撮ってきた映像を最大限作品にはめ込ませる制作をする。そして

NPO法人海岸保安林環境整備副理事長。元ホテルマン。失業対策事業に半年間参加し、森林管理のノウハウを学ぶ。現在は仙台湾の海岸の松林の整備を中心に活動している。また太白区茂原に土地を入手し退職者の方々の「農」とのかかわりによる居場所作りを画策中。

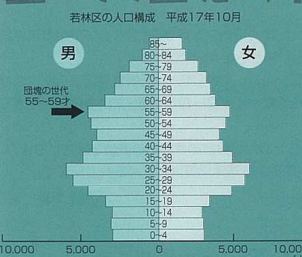


鈴木まさ子さん (60歳代)

自宅を改造し介護が必要な高齢者を日中あずかる「ふれあいミニハウスひまわり」を開設。特別養護老人ホームで働いていた経験を生かし、高齢者支援のボランティアに努めている。



## 力がその生



**メモリー** 最後になりましたが、これから退職を迎える方々へのアドバイス、メッセージをお願いします。

今日ばかりがどうも良かったです。あと、菅井さん

その作品を見た人に感動。感銘を与えたものになったときまた記録映像として、何度でも何度も活用されていることを知らされたとき、作る喜びを感じると思います。司会 高齢だからどうのこうのという話ではないですね。嶺岸 まなびごっこでは、70歳代で、夫婦でパソコンの講師をしていられる方もいます。受講者の方も80歳の方もいます。高齢者の方は皆さんまじめで、参加してよかった、とほめてくださり、みなさんの夢や希望のお手伝いができるのが嬉しです。地域の方々の居場所として、ひきこもらないで、参加していただき、学びあうことが大事だと思っています。

お願いします。相澤 充分時間があるのだから市内各所の市民センターなどの同好会、講座を覗く、好奇心をもって外に出ることだと強く思います。藤平 人間は十人十色で、積極的でない人もいます。ですが、ホームページをひらけば情報場がひとつ増えます。情報化社会の中に出ていって生きがいを見つけたらいいと思います。鈴木 自分が何ができるか考えて、できることから始めたほうがうまくいくと思います。嶺岸 自分の家庭内ボランティアということがあります。小さなことから広がっていくのが本当のボランティアだと思います。司会 少子化で若い人が少ない中、団塊の世代が社会を支えていく力を持たなくては、と私は思います。今日ばかりがどうも良かったです。あと、菅井さん

託を受けて名取市で業務を行う際も、地元の開上でリストラや何らかの事情で会社を辞めた方々もいらつしやりました。何かの事情で退職した世代の方々もいました。団塊の世代の退職を見越して、生き場、一行く場所、ではなく自分の生きがいを感じる場所を提供して何か学んでいただければ、と策略を練っている最中では。司会 まるつきり経験のない人も参加していただけるということですね。鈴木 施設を開設時は6名で立ち上げましたが、ボランティア活動に理解があつて、何かしたいと思つていの方に声をかけました是非にと言つて賛同して下さりました。病気で入院され、その後回復された知人より、「何かできることがあれば、無理せず」ということで送迎のボランティア活動に携わつていただき、必要な人材となつています。司会 高齢者がサービスを提供するということについては？鈴木 共有性をもって活動できるということでしょうね。私は介護予防が一番大切なことだと思います。司会 介護予防のために高齢者がサービスを提供すること

も必要だということですね。嶺岸 私は子育てが終わって40ちよつとくらの頃、この後どんな人生を送りたいかな…と考えたときに、生涯学習ボランティアとして地域に関りたいと思つたんです。そこで通信教育で生涯学習のインストラクターの資格をりました。それを生かし、市民センターの「まなびごっこ」に、立ち上げの時から参加させていただいています。「まなびごっこ」はそれぞれの得意分野を生かしながら教えるというもので、私は講座の企画から運営までを行う「学びのファシリテーター」として活動しています。私も団塊の世代真つ只中の生まれです。この年代はバイタリティのある方が多いので、今日皆さんから伺うことを手ぐすね引いて待つと思っています。



※この座談会は平成17年12月に開催されたものです。





▲盆踊り大会の様子



▲花いっぱい運動

# 地域のイベント仕掛人紹介

上飯田南町内会

太田会長



子どもが来ると、お父さん・お母さん、おじいさん・おばあさんが参加する。

イベントはすべて昨年と「どっか違うもの」めざして、今、上飯田南町内会が燃えている。

## 〔盆踊り大会〕

子どもが太鼓をたたけば人が集まると、14年前から小学5・6年生に太鼓の指導。最初のメンバーは指導役をこなす。祭りの櫓組みや店は全て町内会員の手作りで、経費節約。料理は定番と若者向きを遊友会が作り好評だ。お下がりの七夕飾りなど毎年なにかが加わる。町内会外の参加はもちろん、太鼓で中学生が他の町内会にスカウトされるほど。

## 〔華のある町内〕

平成15年度から花いっぱい運動開始。幼苗を買い鉢に移種畑で育て花の咲いたものを花壇へ。親が手をかけ子どもも参加すること、命の大切さを伝えたいとのこと。町内会員が常に水やりなどとして手入れしている(夏の草取りに子どもも含め120名参加)。

敬老会などの恒例行事だけに終わらず、今年は公園にイルミネーションを飾る。例年通りはない、役員が集まれば次の行事の話で熱くなる。太田善雄町内会長は語る。町内会にいる指導者の活用がキー(鍵)だ。

企画力プラス自分達で何でもやってしまう実行力、この人材で区民まつりは支えられています。しかし裏方の本音は「区民が楽しむ顔が見たい」これに尽きます。よくやるねと言われながら午前3時に魚を買い付けに行ったり、ザリガニを200匹捕まえたり、水生生物を捕まえたり。企画会議は童心に戻った等身大の委員がいっぱいでおおいに楽しんでます。やっぱり「若林区大好きさん」がいっぱいいるよね、貴方なら次は何を仕掛ける？

## ふるさとまつりの実行委員にお話を聞きました!



平成17年10月16日、まちづくり協議会の一大行事、「第17回若林区民ふるさとまつり」が行われました。その実行委員である菅原正和さんにお話を伺いました。

# みんなで考える『地下鉄東西線のくるまち』

平成27年開業予定 3回シリーズ

若林区を東西につなぐ架け橋です。有効な活用ができるように、まちづくりの観点で考えてみませんか。

## 第2回 『卸町地区・薬師堂地区の周辺』

●卸町地区周辺●物流の拠点から、人・もの・情報が交流するまちへ変化していきます。



まちの過去: 昔は田園風景の地区でしたが、昭和40年代の土地区画整理事業により仙台の物流拠点として整備されてきました。まちの現在: 駅予定地の北側は卸商団地中央卸売市場など流通関連の施設が立地しており、仙台の物流における拠点として機能しています。南側は、住宅地として利用されており、最近では高層マンションの建設が特化してきました。

まちの未来: 卸町は物流の拠点から、情報がいきかい、人の顔がよく見えるまちへと発展するのが期待できます。大和町周辺も国道4号バイパス、(都)清水小路多賀城線に近接するため、地下鉄の活用とあわせ交通の利便性の良い住宅地として、生活環境の整備も行われれば住みよいまちの形成が期待されます。

●薬師堂地区周辺●歴史と行政中枢機能がより機能するまちづくり。



まちの過去: 薬師堂地区は奈良時代から陸奥国分寺として歴史のある地区です。遠く南側には伊達政宗時代の若林城(現在宮城刑務所)があり、その周りは鍛冶屋敷(旧町名)の名のように町屋が昔からあった地区です。

まちの現在: 現在駅予定地の北側には宮城野運動公園やJR貨物基地、聖和学園が立地しております。薬師堂周辺から南側には密集した住宅地がありさらに南側には養種園跡に若林区役所や、区文化センターなど行政・文化の中核施設が立地しています。

まちの未来: この地域は若林区の歴史が色濃く残る地域です。この歴史を感じさせながら行政のなごみの機能を果たせるよう、薬師堂の歴史公園の整備や区役所までの道路の整備、密集した住宅地の生活環境整備が求められています。

※詳しくは仙台市のホームページで<http://www.city.sendai.jp/toshi/touzaisenchousei/gaiyou/index.html>

西條 芳郎 記

## 若林区まちづくり協議会

..... 事務局 .....

若林区役所まちづくり推進課  
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1  
TEL282-1111

## 会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝 又 久 雄  
西 條 芳 郎  
菅 井 てる み  
本 多 や ゑ 子

## 編集後記

3年ぶりに編集委員が変わりました。師岡さん、斎野さんご苦労様でした。今回の特集は、多くの方にお集まりいただき、内容も濃いものになったのではないかと思います。お忙しいところ、有り難うございました。読者の皆様、今後も役に立つ情報を提供できるよう努力してまいりますので、ご協力、宜しくお願いたします。(K)